

広介の古里で 「泣いた赤鬼」

童話オペラ 来月、山形協会が児童招き披露

山形

高畠

県内の声楽家などをつくる山形オペラ協会（会長・藤野祐一）山形大地域教育文化学部教授）が6月21日、高畠町の全ての小学生を対象にした町芸術鑑賞教室で、同町出身の童話作家浜田広介の代表作をオペラ化した「泣いた赤鬼」を披露する。昨年初めて山形市内で一般公演し、聴衆を魅了。次はぜひ広介の古里の子どもたちにと稽古を積み重ねていく。

「思い出、考える題材に」

同協会は山形大の教授らが中心となって結成した山形音楽研究会が前身で、現在は会員25人が活動している。昨年9月に山形市中央公民館で開いた同協会本公演「詠唱風土記」で、「オペラ作品があることを知っていた。上演するチャンス」（藤野会長）と、同協会初挑戦となる日本の童話オペラ「泣いた赤鬼」を演じた。

昔から怖い存在と遠ざけられてきた鬼と村人が交流する様子、赤鬼と青鬼の友情…。ピアノや打楽器の演奏が彩りを添えて好評を博し、来場していた高畠町の関係者が「町の子どもたちにも見せたい」と相談したことをきっかけに同町での公演が決まった。

芸術鑑賞教室は町文化ホールまほらで開かれる。会



員たちは定期的に集まって練習しており、客席の子どもたちも巻き込んだ思い出

に残るオペラにしたい考えだ。「音楽が浜田広介の世界を深めてくれる」と藤野会長。いじめが社会問題になるなど児童を取り巻く環境が変化しているからこ

そ、この作品から多くを吸収してほしいとし、「答えはないが、子どもたちがいろいろと考える一つの題材になるはず」と期待する。要望があれば他の市町村

「泣いた赤鬼」の公演に備え練習する山形オペラ協会のメンバー。山形市・滝山コミュニティセンター

での上演についても相談に応じる。問い合わせは、山形オペラ協会事務局（藤野会長の大学内研究室）023（628）4330。